

健康福祉サービス第三者評価結果 公表 共通様式

1 事業者情報

福祉サービスの種別	保育
事業所名	大津市立 皇子が丘保育園
代表者氏名（管理者）	園長 桜井 人美
法人名	大津市
定員（利用人数）	120名
施設・事業所所在地	滋賀県大津市皇子が丘一丁目20-20
T E L	077-525-6092
F A X	077-525-6092
電子メールアドレス	otsu1416@city.otsu.lg.jp
ホームページアドレス	https://www.city.otsu.lg.jp/soshiki/015/hoikuen/1416/1468915208715.html

2 第三者評価機関

第三者評価機関名	一般社団法人 滋賀県介護福祉士会
評価実施期間	令和5年12月18日・12月20日

3 評価の概要

○ 総合評価

大津市立皇子が丘保育園は、大津市の中央部に位置し、JR大津京駅や京阪電車の最寄り駅が近くにあり、交通の利便性などにより人口増加が著しい滋賀学区にあります。近隣には大津京史跡が点在する歴史深い土地柄です。

皇子が丘保育園では、『一人ひとりを大切にする保育』を基本として、保育目標を「心身ともに調和のとれた発達を図り、自主的・社会性を養い、豊かな情操と創造性を培う」を保育目標に定めています。今年度の保育テーマは「どきどき わくわく もっともっと ～自分も人もたいせつに～」を掲げ、仲間とともに、生命を大切にする保育、家庭や地域とともにすすめる保育に取り組んでいます。保護者や地域住民も園の運営には協力的で、住宅地内ではあるが、子どもたちの歓声や音への苦情もなく、近隣住民が園の駐車場などの草刈り作業をボランティアで行っていただくなど、地域に根差した保育園として運営しています。また、園のテーマソングとして「手のひらを太陽に」を子どもたちがみんなで歌うことで、命の大切さや思いやりなどを育んでいます。

○ 特に評価の高い点

1. 子どもの「内面理解」にもとづく働きかけと安全計画

園では、保育研究のテーマとして「子どもの内面理解」を深め、子どもの願いに寄り添う保育に取り組んでいます。子どもの「楽しく」「もっと面白く」を大事にして『子どもの自己肯定感』を感じとれる保育を大切にしています。また、園全体で「安心・安全な保育」にも取り組んでいます。インシデント・ヒヤリハットを収集し、分析・検討・対応・保護者への連絡等、一連の危機管理の流れが確立しています。

2. 地域との連携を大事にした保育

皇子が丘保育園では、「子育て支援事業」に積極的に取り組み、「つどい」・「児童館」・「幼稚園や小学校」・「自治会の草刈り等のボランティア」などとの連携を図りながら、地域とともに子どもたちの成長を育んでいます。地域担当の保育士だけでなく、他の保育士や職員も一緒になって、生き生きと保育に取り組んでいる様子が確認出来ました。

3. 食育への取り組み

調理室の職員が園の保育と連動させて、野菜の育生・米づくり・収穫作業・クッキング・行事食、調理員による衛生面や味付け、食べやすさに拘った調理等に取り組み、いのちの尊さ、栄養・食習慣など食を教育の観点から捉える食育に力をいれ

ています。また、給食サンプルの展示や保護者へ「食育だより」等で、日々の献立メニュー、行事食やレシピの提供等の食に関する情報を発信し、保護者の食への興味や関心を向上させています。

4. 子どもの発達欲求に依拠した、共に育ち合う保育

子どもの多様性を意識して年齢別クラスで一緒に生活することで、個々の“こうなりたい”という発達欲求に依拠し、どの子ども共に育ち合う保育を実践しています。子どもたちは様々な仲間がいることを理解し支え合うことを身に付けています。職員は子ども1人ひとりの理解と発達支援の技術を深め、専門職として働きかけています。また、保護者が安心して話ができる環境づくりに努めると共に、巡回相談、わたげの会等との連携を通して、家庭全体の支援に関わっています。

○ 改善を求められる点

1. 各種マニュアルの作成と見直し

園では、子どもの権利擁護の必要性を十分認識していますが、個人情報保護と子どものプライバシー保護のためのマニュアルを区別して、マニュアル内容を検討・見直しすることをお奨めします。また、ボランティア受入れマニュアルや災害時の地域関係機関との具体的な連携マニュアルの作成も必要だと思われます。

2. 職員の働きやすさへの配慮

職員ヒアリングからは、有休取得の取り難さの意見が聞かれました。大津市立保育園全体の課題だと考えますが、保育士業務全体の見直しや効率化などの検討が必要だと考えます。

4 第三者評価結果に対する事業者のコメント

信頼できる人間関係の中、“一人ひとりを大切にする保育”の実現のため、保育者が子どもの内面理解を深めることに力を注ぎ、その結果、子どもがのびのびと遊び育っていることを評価していただき、うれしく思っております。まずは、自分が大事にされていることを感じ、自己肯定感を抱くこと、そのうえで、子どもの「こうなりたい」という願いに心を寄せ、一人ひとりの持っている力を発揮させられるよう保育をすすめています。今後はさらに、子ども理解に努め、子どもの主体性を大切に環境による保育の実践を広げたいと思います。また、子ども達が共に育ち合うように、職員もそれぞれが自分らしさを発揮し、互いに育ち合う保育園づくりに努めます。

いただいた課題については、今後業務内容の精査を行い、働きやすい職場づくりと災害時の対応、福祉避難所の取り扱い等について検討していきたいと考えております。今まで当たり前に行ってきたことの意味を確かめ、目の前の子ども、保護者に手渡したいことは何かを職員間で考え合い、保育の質の担保につなげたいと思います。

これからも、地域の方のお力添えの元、保護者の皆様と力を合わせて、地域の子育て拠点として市民に信頼され、安心安全で利用しやすい保育園となるよう、職員で力を合わせ、“明日も来たい保育園”を目指して尽力したいと思います。